

# 「オートマトンと形式言語」補足資料(1)

## 1 文字列に関する補足 (教科書0.2節)

- $\varepsilon$  は空文字列を表わしているから, 任意の文字列  $w$  について,  $\varepsilon w = w\varepsilon = w$
- $\varepsilon$  は文字列の連結に関する単位元なので, 以下のように定義する: 任意の文字列  $w$  について,  $w^0 = \varepsilon$
- 任意の  $k \geq 0$  について,  $\varepsilon^k = \varepsilon$
- $\Sigma$  を文字集合とする. このとき,  $\Sigma^*$  は, 以下のように定義される文字列の集合:

$$\Sigma^* = \{x_1 \cdots x_k \mid k \geq 0, \text{任意の } 1 \leq i \leq k \text{ について } x_i \in \Sigma\}$$

- 以下の性質が成り立つことにも注意:
  1.  $\varepsilon \in \Sigma^*$
  2.  $u \in \Sigma^*$  かつ  $w \in \Sigma^*$  ならば,  $uw \in \Sigma^*$

## 2 有限オートマトンの計算に関する補足 (教科書1.1節)

**定義 1**  $M = (Q, \Sigma, \delta, q_0, F)$  を (決定性) 有限オートマトンとする. このとき,  $\hat{\delta} : Q \times \Sigma^* \rightarrow Q$  を以下のように再帰的に定義する:

$$\hat{\delta}(q, w) = \begin{cases} q & (w = \varepsilon \text{ の場合}) \\ \hat{\delta}(\delta(x, q), w') & (w = xw', x \in \Sigma \text{ の場合}) \end{cases}$$

遷移関数  $\delta$  は,  $\delta : Q \times \Sigma \rightarrow Q$ . 一方, 上で定義した関数  $\hat{\delta}$  は,  $\hat{\delta} : Q \times \Sigma^* \rightarrow Q$  であることに注意.

**例 2** 例 1.7 の有限オートマトン  $M_2 = (\{q_1, q_2\}, \{0, 1\}, \delta, q_1, \{q_2\})$  を考える. このとき,

$$\begin{aligned} \hat{\delta}(q_1, 101) &= \hat{\delta}(\delta(q_1, 1), 01) \\ &= \hat{\delta}(q_2, 01) \\ &= \hat{\delta}(\delta(q_2, 0), 1) \\ &= \hat{\delta}(q_1, 1) \\ &= \hat{\delta}(\delta(q_1, 1), \varepsilon) \\ &= \hat{\delta}(q_2, \varepsilon) \\ &= q_2 \end{aligned}$$

上で定義した関数  $\hat{\delta}$  を用いると, 有限オートマトンの受理する言語は, 以下のように定義できる:

**定義 3**  $M = (Q, \Sigma, \delta, q_0, F)$  を (決定性) 有限オートマトンとする. このとき,  $M$  の認識する (受理する) 言語  $L(M)$  は, 次のように定義される.

$$L(M) = \{w \in \Sigma^* \mid \hat{\delta}(q_0, w) \in F\}$$

### 3 演算に関する補足 (p.51)

1.  $A$  を集合とするとき、関数  $f: A^2 \rightarrow A$  を  $A$  上の 2 項演算という。
2.  $f$  を集合  $A$  上の 2 項演算とし、 $B \subseteq A$  とする。任意の  $a, b \in B$  について  $f(a, b) \in B$  となるとき、 $B$  は 2 項演算  $f$  について閉じている、という。

### 4 補集合を認識する有限オートマトン (演習 1.5)

以下では、次の集合演算を用いる。

$$A \setminus B = \{x \in A \mid x \notin B\}$$

( $A$  が全体集合である場合、 $A \setminus B$  は  $B$  の補集合を表わす。)

定理 4  $M = (Q, \Sigma, \delta, q_0, F)$  を (決定性) 有限オートマトンとする。このとき、(決定性) 有限オートマトン  $M'$  を以下のように定義する：

$$M' = (Q, \Sigma, \delta, q_0, Q \setminus F)$$

このとき、 $\Sigma^* \setminus L(M) = L(M')$ 。

証明。

$$\begin{aligned} w \in \Sigma^* \setminus L(M) & \\ \iff w \in \Sigma^* \wedge w \notin L(M) & \quad (\setminus \text{の定義より}) \\ \iff w \in \Sigma^* \wedge w \notin \{w \in \Sigma^* \mid \hat{\delta}(q_0, w) \in F\} & \quad (L(M) \text{の定義より}) \\ \iff w \in \Sigma^* \wedge \neg(w \in \Sigma^* \wedge \hat{\delta}(q_0, w) \in F) & \quad (\text{内包表記の展開}) \\ \iff w \in \Sigma^* \wedge \neg(\hat{\delta}(q_0, w) \in F) & \quad (\text{論理演算による同値変形}) \\ \iff w \in \{w \in \Sigma^* \mid \hat{\delta}(q_0, w) \notin F\} & \quad (\text{内包表記への変形}) \\ \iff w \in \{w \in \Sigma^* \mid \hat{\delta}(q_0, w) \in Q \setminus F\} & \\ \iff w \in L(M') & \end{aligned}$$

□

### 5 定理 1.25 に関する補足 (教科書 1.1 節)

定理 5  $M_1 = (Q_1, \Sigma, \delta_1, q_1, F_1)$  および  $M_2 = (Q_2, \Sigma, \delta_2, q_2, F_2)$  を (決定性) 有限オートマトンとする。このとき、(決定性) 有限オートマトン  $M = (Q, \Sigma, \delta, q_0, F)$  を以下により定義する：

1.  $Q = Q_1 \times Q_2$ ,
2.  $\delta((r_1, r_2), x) = (\delta_1(r_1, x), \delta_2(r_2, x))$ ,
3.  $q_0 = (q_1, q_2)$ ,
4.  $F = (F_1 \times Q_2) \cup (Q_1 \times F_2)$ 。

このとき、 $L(M) = L(M_1) \cup L(M_2)$ 。

証明. まず,

性質 (A) : 任意の  $w \in \Sigma^*$ ,  $r_1 \in Q_1, r_2 \in Q_2$  について,  
 $(\hat{\delta}_1(r_1, w), \hat{\delta}_2(r_2, w)) = \hat{\delta}((r_1, r_2), w)$

を示す.

性質 (A) の証明. 文字列  $w$  の長さに関する帰納法で示す.

1.  $|w| = 0$  の場合. このとき,  $w = \varepsilon$ . よって,

$$(\hat{\delta}_1(r_1, \varepsilon), \hat{\delta}_2(r_2, \varepsilon)) = (r_1, r_2) = \hat{\delta}((r_1, r_2), \varepsilon)$$

2.  $|w| > 0$  の場合. このとき,  $w = xw'$  ( $x \in \Sigma, w' \in \Sigma^*$ ) とおける. いま,  
 $\delta_1(r_1, x) = r'_1, \delta_2(r_2, x) = r'_2$  とおくと,  $\delta$  の定義から,

$$(r'_1, r'_2) = (\delta_1(r_1, x), \delta_2(r_2, x)) = \delta((r_1, r_2), x) \quad (1)$$

が成立する. よって,

$$\begin{aligned} & (\hat{\delta}_1(r_1, xw'), \hat{\delta}_2(r_2, xw')) \\ &= (\hat{\delta}_1(\delta_1(r_1, x), w'), \hat{\delta}_2(\delta_2(r_2, x), w')) \quad (\hat{\delta}_1, \hat{\delta}_2 \text{ の定義より}) \\ &= (\hat{\delta}_1(r'_1, w'), \hat{\delta}_2(r'_2, w')) \quad (r'_1, r'_2 \text{ の定義より}) \\ &= \hat{\delta}((r'_1, r'_2), w') \quad (\text{帰納法の仮定より}) \\ &= \hat{\delta}(\delta((r_1, r_2), x), w') \quad (\text{等式 (1) より}) \\ &= \hat{\delta}((r_1, r_2), xw') \quad (\hat{\delta} \text{ の定義より}) \end{aligned}$$

(性質 (A) の証明の終わり)

従って,

$$\begin{aligned} & w \in L(M_1) \cup L(M_2) \\ \iff & w \in L(M_1) \vee w \in L(M_2) \\ \iff & w \in \Sigma^* \wedge (\hat{\delta}_1(q_1, w) \in F_1 \vee \hat{\delta}_2(q_2, w) \in F_2) \\ \iff & w \in \Sigma^* \wedge (\hat{\delta}_1(q_1, w), \hat{\delta}_2(q_2, w)) \in (F_1 \times Q_2) \cup (Q_1 \times F_2) \\ \iff & w \in \Sigma^* \wedge (\hat{\delta}_1(q_1, w), \hat{\delta}_2(q_2, w)) \in F \quad (F \text{ の定義より}) \\ \iff & w \in \Sigma^* \wedge \hat{\delta}((q_1, q_2), w) \in F \quad (\text{性質 (A) より}) \\ \iff & w \in \Sigma^* \wedge \hat{\delta}(q_0, w) \in F \quad (q_0 \text{ の定義より}) \\ \iff & w \in \{w \in \Sigma^* \mid \hat{\delta}(q_0, w) \in F\} \\ \iff & w \in L(M) \end{aligned}$$

□

定理 6  $M_1 = (Q_1, \Sigma, \delta_1, q_1, F_1)$  および  $M_2 = (Q_2, \Sigma, \delta_2, q_2, F_2)$  を (決定性) 有限オートマトンとする. このとき, (決定性) 有限オートマトン  $M = (Q, \Sigma, \delta, q_0, F)$  を以下により定義する:

1.  $Q = Q_1 \times Q_2$ ,
2.  $\delta((r_1, r_2), x) = (\delta_1(r_1, x), \delta_2(r_2, x))$ ,
3.  $q_0 = (q_1, q_2)$ ,

$$4. F = F_1 \times F_2.$$

このとき,  $L(M) = L(M_1) \cap L(M_2)$ .

証明. まず, 性質 (A) は定理 5 のときと同様に証明できる. これを使って,

$$\begin{aligned}
& w \in L(M_1) \cap L(M_2) \\
& \iff w \in L(M_1) \wedge w \in L(M_2) \\
& \iff w \in \Sigma^* \wedge (\hat{\delta}_1(q_1, w) \in F_1 \wedge \hat{\delta}_2(q_2, w) \in F_2) \\
& \iff w \in \Sigma^* \wedge (\hat{\delta}_1(q_1, w), \hat{\delta}_2(q_2, w)) \in F_1 \times F_2 \\
& \iff w \in \Sigma^* \wedge (\hat{\delta}_1(q_1, w), \hat{\delta}_2(q_2, w)) \in F \\
& \iff w \in \Sigma^* \wedge \hat{\delta}((q_1, q_2), w) \in F && \text{(性質 (A) より)} \\
& \iff w \in \Sigma^* \wedge \hat{\delta}(q_0, w) \in F && \text{(} q_0 \text{ の定義より)} \\
& \iff w \in \{w \in \Sigma^* \mid \hat{\delta}(q_0, w) \in F\} \\
& \iff w \in L(M)
\end{aligned}$$

□